

令和4年度 自己評価表（中間評価）

鳥取県立鳥取西高等学校

教育目標	藩校「尚徳館」の「文武併進」の精神を受け継ぎ、高い志を持ち、幅広い教養を身につけ、社会の進歩・発展に貢献する創造性豊かな人間を育成する。				
中長期目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒が学問の意義に目覚め、深く学ぶことの喜びを実感できる質の高い教育を推進する。 2 生徒が確かな学力を身に付け、自己の将来像を描き、進路目標を実現できる教育を推進する。 3 生徒に良識を培い、自律と規範、自立と共生の精神を涵養することによって、社会のリーダーとなる素養を育てる。 4 教科の学習とともに、部活動や学校行事等の体験的活動への積極的参加を通じ、知徳体のバランスのとれた人間の育成を図る。 	今年度の重点目標	『深い学び』『幅広い学び』を通じて新時代を創造するリーダーの育成を図る <ol style="list-style-type: none"> ① 学問の奥深さに触れ、深く学ぶことの喜びを実感できる授業を研究・実践する。 ② 生徒が高い進路目標に挑戦しその目標を実現できるよう、戦略的に進路指導を進める。 ③ SSH事業やSGH関連事業を組織的に推進し、科学技術系人材やグローバル人材の育成を図る。 ④ 生徒の良識を培うと共に、挨拶を含め生徒の社会性を高める。 ⑤ 部活動に積極的に参加し上位大会を目指すと共に、スポーツ・文化芸術等各種大会・コンクール等へも積極的に挑戦する。 		

評価基準 A:十分達成 [100%] B:概ね達成 [80%程度] C:変化の兆し [60%程度] D:まだ不十分 [40%程度] E:目標・方策の見直し [30%以下]

年度当初		評価結果(10月)					
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
深く学ぶことの喜びを実感できる授業の研究・実践	<ul style="list-style-type: none"> ○学問の奥深さに触れられるような授業実践 ○協働的・対話的な学習、ICTの主体的な活用 ○SSH(スーパーサイエンスハイスクール)/SGH(スーパーグローバルハイスクール)事業の推進、課題研究の実践と改善 	<ul style="list-style-type: none"> ○生活評価アンケートで「授業や各種の行事により教養や関心の幅が広がった」生徒が91%、「自ら学ぶ意欲が高まっている」生徒が87%である。 ○授業アンケートで「授業で学びが深まった」とする生徒が83%である。 ○ICTを活用した、協働的・対話的な学習の授業研究に取り組んでいる。 ○SSH等の各種プログラムにより課題研究が充実し、体系的な取組が進んできた。また、ESD(持続可能な開発のための教育)やSDGs(国連開発目標)等の視点による、対話的・探究的な学びが実施されつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生活評価アンケートや授業アンケートで学校での学びの充実に肯定的な回答が前年度と同等の高い値を維持している。 ○Chromebook等の情報端末が全ての授業で効果的に利用されている。 ○ESD等の視点からの対話的・探究的な学びにより学問の奥深さに触れる質の高い課題研究が展開され、生徒の科学的な素養が高まり、グローバルな視野で物事を考えている生徒の割合が増加している。 ○SSH等の研究開発を有効に活用した、主体的に知的活動に取り組める課題研究や各種の研修プログラム等が充実している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業見学の取り組みを通して、同一教科だけでなく他教科の取組から学ぶ機会を増やし、教科横断的な取組の推進を図る。 ○SSH等の研究開発を通して、課題研究の取り組みを推進し、生徒の主体的な探究学習を深化させる。 ○課題研究メソッドやICT機器を活用して、課題研究の方法を習得させる。課題研究における生徒へ指導が丁寧に行えるようにし、論文やポスターの質的向上を図る。 ○生徒間でChromebookの利用について教えあう雰囲気を作り上げる。それにより、ICTの活用と生徒の自主性の両立を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業見学を呼びかけているが実施状況は現時点では低調である。 ○教科内での情報共有により効果的な学習指導がおこなわれている。 ○授業アンケートで「授業で学びが深まった」とする生徒は75%である。 ○課題研究の取組を工夫し、研究内容の充実が図られ、研究発表や論文、研究計画書が質的に向上している。 ○1年生が所持するChromebookの効果的な活用については研究途上である。 ○iPad等が生徒の主体的な学習活動に利用されている。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ○授業見学強化月間や授業研究会などを通して、教員同士が学び合い授業の魅力を高められるような取り組みをおこなう。 ○生徒が深い学びに触れられるような教材開発を更に進めるとともに、発表の場を与えて主体的な活動を引き出す。 ○今後も課題研究の実施方法や指導内容を工夫し、研究開発を継続する。 ○引き続きChromebookの活用方法を教員間で共有し、活用の幅を広げる。 ○先進校視察をおこない、授業方法の改善やICT機器の有効活用に繋げる。
進路目標の設定と、その実現に向けた確かな学力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○面接・キャリア教育の充実 ○戦略的な進路指導の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○年に4回の面接旬間を設けているが、その期間以外にも面接が実施され、進路や学習、学校・家庭生活などについてのきめ細かい指導がおこなわれている。 ○面接指導や自宅学習時間調査、各種調査を通して、生徒の学習意欲の向上や進路意識の育成に努めている。 ○キャリアパスポートの活用等、キャリア教育への取り組みが不十分で、進学実績も目標を大きく下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○面接で、生徒の意欲や自習性が高まるような効果的な指導が行われている。 ○図書館ガイダンス等により、情報収集や情報・思考の整理等、思考の深化を図る活動を体系的に行えるようになっている。 ○生徒や保護者に必要とされる進路決定のための情報が十分に提供されている。 ○進路指導シラバスやキャリアパスポートの活用により、進路目標を維持し自律的に学習に取り組む生徒が育成されている。 ○大学合格者数が国公立大学230名、難関10大学・医学科60名を超えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○きめ細かい面接指導を継続するとともに、教科会や学年会での情報共有を進め、生徒の進路、学習および生活について協調した指導を行う。 ○自宅学習時間調査を、より高い進路目標の維持・達成のための指導に活用する。 ○キャリアパスポートに進路研究内容をファイリングし、自己分析・自己実現に繋げる。 ○進路決定や大学入試に向けた情報発信を積極的に行う。特に変更点の多い2025年度情報については重点的に情報収集・提供をおこなう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○丁寧な面接指導が随時行われており、生徒の学習や生活についてのサポートが適切に行われている。 ○課題研究APで進路に結び付く課題に取り組ませている。 ○各種ガイダンスを実施し、授業や課題研究への活用を図っている。 ○PTA進路委員会作成の各学年向けのビデオ研修により、現状及び今後着目してほしいことを保護者に伝えている。 ○総合型選抜入試に例年よりも多くの生徒が挑戦している。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ○引き続き、きめ細かい面接指導を継続していく。そのための時間確保等の配慮も行っていく。また、必要な情報提供を必要な時期に随時おこなっていく。 ○自宅学習時間調査の結果を進路指導や学習指導で更に効果的に活用していく。 ○総合型選抜に向かう生徒が増えたことを受けて、進路指導や学校行事の日程及び指導のための校内体制を再検討する。
良識を培い、社会性を高めるための指導の推進	<ul style="list-style-type: none"> ○自主・自律的な学校生活、自発的な挨拶の習慣 ○地域・社会との良好な関係を醸成 ○互いを思いやる心の涵養 	<ul style="list-style-type: none"> ○「一人ひとりが規則やきまりを守り、けじめのある生活をしている」との回答は91%、「一人ひとりが人権の尊重された学校生活を送っている」とする割合は95%。 ○挨拶をする生徒が増えてきたが、自ら挨拶する生徒は多くない ○保護者と学校の連携のもと、多くの生徒が節度と良識のある生活を送っているが、自転車マナーや情報モラルについては継続的な指導が必要である。 ○HP・SNSも用いて情報発信を進めているが、保護者への浸透については改善の余地がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「規則やきまりを守り、けじめのある生活をしている」生徒の割合(アンケート)が90%以上を保っている。 ○生徒同士や教員・来校者への挨拶が自然にできるようになっている。 ○生徒が社会や地域への関心を持ち、学習活動が自分の生活や進路目標に結びついていることを実感しており、通学マナーや情報モラルが守られている。 ○LHRや人権講演会などの人権学習だけでなく、日常生活の中で人権や差別について考え、自他の人権を尊重しながら多様な人間関係を作る取り組みが実践できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○規則の意味を理解させるとともに、挨拶の励行など、マナーを身につけた生活ができるよう、きめ細かな声掛けを行っていく。また、情報モラルを基本的な生活習慣の一つとして身につけさせる。 ○あいさつ運動等の機会に、様々なマナーについての啓発運動も併せて行う。 ○西高だより等でHP・SNSでの情報発信についてPRし、その逆もおこなうことで保護者に確実に情報が伝わるように努める。学校と保護者相互の連携協力と信頼関係の構築を図り、教育力を高め、生徒の社会性を育み、人間関係作りをサポートする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○節度と良識をもって学校生活を送っており、落ち着いた様子である。挨拶については気持ちよくできる生徒が見受けられる。 ○自転車使用については、マナーに関する苦情、また自転車事故も何件か報告されている。 ○コロナウイルス感染症防止対策を意識した学校生活を送ることができている。 ○人権教育等の取り組みを通して自分と社会の関わりや将来的な改善の考察を進めている。生徒による校則見直しの主体的活動など、一定の効果が認められる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○挨拶やマナー、ルールについて継続的な指導をおこなう。 ○引き続き、教育相談室・保健室や担任、学年団との連携を図り、生徒の心身の健康管理に努める。 ○教員間の連携を密にしなが、生徒の人的成長を多方面から促す。 ○今後も生徒と教員との対話を大事にしていく。
部活動や体験的活動、対外的な大会や発表会等への積極的な挑戦	<ul style="list-style-type: none"> ○部活動への積極的取り組み ○部活動以外の各種体育・文化・芸術活動等への参加 ○対外的な学術研究会、発表会等への参加の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ○県大会ベスト4以上の運動部活動は12、中国大会以上の文化部活動は8だった。 ○各種研究会・学会や大会等に参加した生徒数は238人、そのうち上位入賞者数は41人だった。 ○授業での活動を対外的な評価につなげている教科もあれば、部活の成果として好成績を収めている取り組みもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○多くの生徒が運動または文化部活動に参加し、大会結果も前年度以上の成果を挙げている。 ○部活動の枠に囚われず、生徒各々が自分の熱中することに真剣に取り組んでいる。また、それを評価し後押しする意識が職員間で共有されている。 ○各種研究会・学会、グローバルサイエンスキャンパス(GSC)やサイエンス系のイベント、校内セミナー等に参加する生徒人数が前年度より増えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○部活動と学習活動やキャリア教育が相乗的好影響を与えるような指導に心掛ける。 ○各種研究発表会やサイエンスイベントに関する情報を分かりやすく提示し、生徒が段階的に参加できる環境を整える。 ○各種発表会・学会等の発表会や各種研究会・学会等に参加して得た成果を校内発表会や授業を通じて多くの生徒にフィードバックし、生徒の研究活動の啓発につなげる。 ○大学教授、社会人講師等の活用、県立博物館、図書館等との連携を積極的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○研究発表会、研修プログラムの充実を図り、生徒の取り組みを喚起している。 ○授業や課題研究、部活動で様々なコンテンツや研究発表会及び研修プログラムに参加し、成果を上げている。また、イベントや行事での情報発信や、各種報道により生徒の活動が高く評価されている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○外部での研究発表を支援するとともに、校内にも研究・研修内容を還元する。 ○今後予定されている各種イベントやプログラムに多くの生徒が参加し成果を上げられるように、呼びかけやサポートを継続的におこなっていく。 ○生徒の活動についてのPRや情報発信を効果的におこなっていく。 ○部活動、勉強、他の活動などバランスを取りながら積極的両立を促す。
業務改善の取組	<ul style="list-style-type: none"> ○業務の効率化、簡素化 ○長時間勤務者の解消 	<ul style="list-style-type: none"> ○会議が連日開催される時期がある。 ○昨年度時間外業務時間45時間/月超の職員が月平均5.3人、360時間/年超の職員が15人となっている。 ○部活動の時間外指導時間30時間/月超の職員が延べ20人となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○必要のある会議が短時間で効率よく行われている。 ○時間外業務時間45時間/月超の職員が月平均5人未満、360時間/年超の職員が10人未満となっている。 ○部活動の時間外指導時間30時間/月超の職員が延べ10人となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○会議の精選、および実施方法の工夫(書面開催等)に取り組む。 ○ICTを活用し、業務効率化を推進する。 ○時間外業務が多くなりそうな職員に声をかけ、事情を聞きながら縮減策を検討する。 ○部活動計画表を確認し、計画の修正を依頼することで時間外指導時間の縮減を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○GoogleClassroomを利用し、職員朝礼での口頭連絡・報告を極力書面のみとした。 ○PC採点「百問繚乱」を本格導入した。 ○時間外業務時間45時間/月超の職員が月平均10人(9月末現在)である。 ○部活動の時間外指導時間30時間/月超の職員が延べ26人(9月末現在)である。 	D	<ul style="list-style-type: none"> ○事前の連絡調整を積極的に行い、会議の書面開催をさらに進める。 ○保護者の欠席連絡をフォーム入力化。 ○職員に時間外業務時間の個票を配布し、縮減策の検討を依頼する。 ○部活動計画の点検・修正により、時間外指導時間の縮減を図る。